

平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式3)

3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	評価委員会	評価日		
1 確かな学力	豊かな体験・活動 総合育成支援教育 環境の見直し	ねらいを明確にした保育内容の実践ができるいるか園内研修で確かめる。 対象児の的確な実態把握と適したかかわり 園庭や保育室の環境を保育内容や時期で見直す意識をもつ。	・喜んで登園し、楽しい幼稚園生活を送っていると思いますか。 ・園内研修 ・専門機関・総合育成支援課との連携。 幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境(素材・材料・遊具など)が整えられていると思いますか。 「大変そう思う」という回答率33%、「そう思わない」という回答が	「そう思う」が100%という回答。 園内研修で学期、行事ごとに反省会を実施。 専門機関・総合育成支援課との連携を学期に1回もち、伝達研修でかかわります。 「大変そう思う」という回答率33%、「そう思わない」という回答が	⇒ 分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策 ・子どもたちは全員が幼稚園生活を楽しんでいる。4歳児では行事によって登園しうりがある。 ・子どもの興味関心に応じた物的環境の整え方、生活発表会の表現遊びでの子どもの発想の引き出し方などに課題が見られた。 ・4歳児は個人差が大きいので、個別に行事の楽しさを伝える指導が必要で、その子の実態に合わせた参加の仕方も考えることが、年長で充実した生活を送ることになる。 ・保育室の環境構成は保護者から見えにくいので、参観を増やすなど、目に見えるようにする工夫が必要である。	学校関係者評価による意見 ・幼児期は友達同士の育ちあいがある。子どもたちのがのびのびと遊べるように保育を進めてほしい。 ⇒ 生活発表会を参観して、特に年長児の育ちを感じ、感動した。	学校関係者評価 運動会、生活発表会を参観してもらい、感想や評価を聞く。長年、幼稚園教育を見ている地域の方に、子どもの姿の変化についても指摘してもら、改善に活かす。	
2 豊かな心	幼児理解 家庭・地域との連携 週案の充実	一人一人を大事にしている教職員の意識作り 日常的な家庭との連携・地域版での子どもの姿発信 PDCAが書かれているか見直す。	教職員は子ども一人一人に温かいかかわりをしていると思いますか。 園には、子どもの事について話しやすい雰囲気がありますか。 提出時の確認と園内研修	「そう思う」という回答率が100% 「大変そう思う」という回答率が55%。年長児の方が高い評価である 提出時に園長のコメントを記入し、週の途中で見直す。	⇒	・年長児の保護者が話しやすい雰囲気を感じていたことから、保護者も幼稚園に慣れて自分の思いが出来るようになったことがうかがえる。 ・週案の内容に変更があったときは赤で記録し、週単位で見直し次週につながるようになる。	昔は大人数の幼稚園だったが、今は少人数で教師からは見えやすい。しかし幼稚園は集団教育の場、切磋琢磨できる人数とはどれくらいのか。	少人数の良さを生かした取組をしながら、地域の小学校や保育所との交流保育を進め、適正な人數で活動する機会を設ける。	
3 健やかな体	生活習慣の自立 保健年間計画の策定	個に応じたかかわりを行う。 保健職員と担任の連携	自分でできることは、最後まで自分でしようとします。 毎月の保健行事(体重測定)前のねらいの確認	「そう思う」という回答率が80%、「そう思わない」は10%。 毎月の行事予定の職員会で、保健行事のねらいと内容を再確認する。	⇒	・生活習慣について、前期と同様低い評価である。 ・保健指導で聞いたこと(例 手洗いの歌)を、家庭でも実践する姿が見られ、効果が出ている。	・生活習慣の自立に向けて、スマールステップを踏み自信をもたせながら進めることを、文書や懇談会で発信していく。	運動会を参観し、走るだけでなく様々な運動を取り入れられ工夫されていることが分かった。子どもたちの走る姿から体力面の低下が感じられた。	
4 独自の取組	保幼小連携 預かり保育 情報発信の充実	幼保プロジェクト(こどもみらい館)の目的に基づいた交流・小学校との連携 毎日実施と内容の見直し 学級だより、懇談会、ホームページ更新	・地域と進んで連携しその特色(保育所や小学校との交流を生かした体験が、保育に取り入れられていると思います)。 ・幼保交流の評価は「大変そう思う」という回答率が92%。 ・預かり保育の参加率。 幼稚園だより(子どもの姿)やホームページで、幼稚園の遊びの様子がわかりますか。	年長児保護者の評価は「大変そう思う」という回答率が92%。 参加率は1月～3月は50%程度。 「大変そう思う」という回答率が65%。	⇒	・幼保交流は楽しく取り組めて、保護者も、保育所・幼稚園の教員も成果を感じる結果となった。 ・預かり保育の参加率が低くなったのは、家庭で秋冬と体調管理に気を付けていたこと、また、習い事を始めたことが考えられる。	・保育所とは6回交流し、子どもも大人も顔を覚え、その子にあった言葉かけができるようになった。来年度の成果を生かし、来年度も幼保交流を続けていく。 ・家庭での親子のかかわりがしっかり行われていることもあるので、来年度も親子の時間を大事にしながら、幼稚園の預かり保育を利用できるように呼びかけたい。	小学校や保育所との連携は良い取組であるので、どんどん進めてほしい。 ⇒ 少人数園なので、切磋琢磨する機会を作り、子ども同士の育ちあいができるように、保育所や小学校と連携することが大事である。	地域の保育所、幼稚園と連携を年間計画に位置付け、引き続き行う。

4 総括・次年度の課題

- ・保護者だけなく地域の方にも運動会や生活発表会を参観してもらうことで、評価がいただける。これからもいろいろな機会に園に来てもらえるように呼びかけることが大事である。
- ・保護者はおおむね幼稚園教育について理解があり、子どもの育ちを感じるという結果であった。細かく見ると、環境構成や個への対応など十分でない面があるので、研修を行い、保護者への発信ができるように研修する必要がある。また、行事の見直しを行い、保育に活かせるようにしたい。
- ・今年度の幼保交流は、みらい館の取組の一つとして、成果を公表する機会や指導を受けることができた。この経験をもとに、来年度もねらいを明確にした交流を進め、幼保の相互理解を図りたい。